

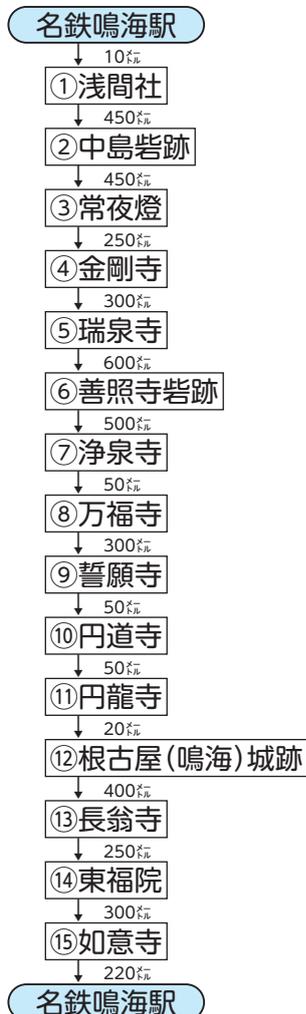
第2章 史跡・自然

1 史跡散策路

地域で育まれてきた文化財を保存・活用し、ゆとりとふれあいのある町づくりに役立てることを目的として、緑区内に5コースの史跡散策路が設定されています。区内にある自然とふれあいの中で、郷土の史跡・文化財を正しく理解し、次代への継承を図っています。

史跡散策路・鳴海宿コース(約4.2キロ)

コース順路



コースガイド

① 浅間社 (せんげんしゃ)

祭神は木花開耶姫命。元文2(1737)年に鳴海八幡宮の御旅所となった。通称浅間堂。境内には、火伏せ(防火)の神様である秋葉社が合祀されている。

② 中島砦跡 (なかじまとりであと)

永禄2(1559)年に織田信長が今川義元の侵攻に備えて築いた砦。永禄3(1560)年の桶狭間合戦では梶川平左衛門尉一秀を守将として今川勢と戦った。現在の碑は昭和2(1927)年建立。

③常夜燈 (じょうやとう)

文化3 (1806) 年宿場町の東入口に、旅人の目印・宿並びに道中の安全を祈願して建てられたもの。石燈籠の四面に「永代常夜燈」「宿中為安全」「秋葉大権現」「文化三丙寅正月」と文字が刻まれている。

⑤瑞泉寺 (ずいせんじ)

曹洞宗、応永3 (1396) 年創建。開基は安原宗範。開山は大徹禅師。はじめは、瑞松寺といった。総門は宝暦6 (1756) 年宇治の万福寺総門を模した三間一戸重層四脚門の黄檗様式の建造物である。(昭和32年県指定文化財)

⑦浄泉寺 (じょうせんじ)

浄土真宗、永享4 (1432) 年森山左近三郎吉勝(浄空)の開基。本尊は阿弥陀如来像。当初は専修念仏の道場。明治20 (1887) 年愛知郡第三高等小学校を開校したところである。

⑨誓願寺 (せいがんじ)

浄土宗、天正元 (1573) 年僧俊空の開山。本尊は阿弥陀仏、千代倉家の菩提寺。

〈芭蕉供養塔〉 元禄7 (1694) 年10月に芭蕉が亡くなった翌月の命日に如意寺に建立、その後に移された。芭蕉の供養塔としては最古のもの(昭和52年市指定文化財)。

〈芭蕉堂〉 安政年間(1854~59)に永井士前始めその門人が建立。芭蕉手植えの杉の古木で彫刻した芭蕉像が安置されている。

⑪円龍寺 (えんりゅうじ)

浄土真宗、嘉禎年間(1236)に平重盛の孫、神部蔵人吉定が出家して守護。本尊は阿弥陀如来像。当初は天台宗善照寺といった。

⑬長翁寺 (ちょうおうじ) (東海49薬師霊場第34番札所)

曹洞宗、天正10 (1582) 年海雄圭禅和尚の開山。本尊は釈迦牟尼仏。当初は鳴海町薬師山にあった。

⑮如意寺 (にょいじ)

曹洞宗、康平2 (1059) 年称雲道開の開基。本尊は地藏菩薩(尾張国6地藏第4番)。

④金剛寺 (こんごうじ)

曹洞宗、宝暦10 (1760) 年創建。開山は吞舟和尚。本尊が行者菩薩像であることから行者堂ともいわれていた。

⑥善照寺砦跡 (ぜんしょうじとりであと)

永禄2 (1559) 年織田信長が築いた砦。今川の将岡部氏の守る根古屋(鳴海)城に対するもので、信長が桶狭間の奇襲に移る直前、ここに兵を集結した。砦公園内には「鳴海紋開祖三浦之碑」(鳴海紋組合建立)がある。

⑧万福寺 (まんぷくじ)

浄土真宗、永享4 (1432) 年森山左近三郎吉勝(浄空)の開基。本尊は阿弥陀如来像。

⑩円道寺 (えんどうじ)

曹洞宗、天正年間(1573~92) 創建。仁甫良義和尚開山。本尊は青面金剛明王(庚申)。当初は猿堂寺であったが、後に地藏堂、庚申堂、円道寺と変わった。本堂の屋根には、本尊の使わしめである猿の「見ざる」「言わざる」「聞かざる」の格好をした三猿がすえられている。

⑫根古屋(鳴海)城跡 (ねごや(なるみ)じょうあと)

応永年間(1394~1427) 安原宗範の居城。永禄年間(1558~69)に今川の将岡部五郎衛門元信がこの城を守り、桶狭間合戦の際勇名を轟かせた。その後信長の臣佐久間信盛、正勝が居城し、天正末期に廃城となった。

⑭東福院 (とうふくいん)

真言宗、寛永年間(1624~43)に盛辨の開基。本尊は大日如来像。



浅間社



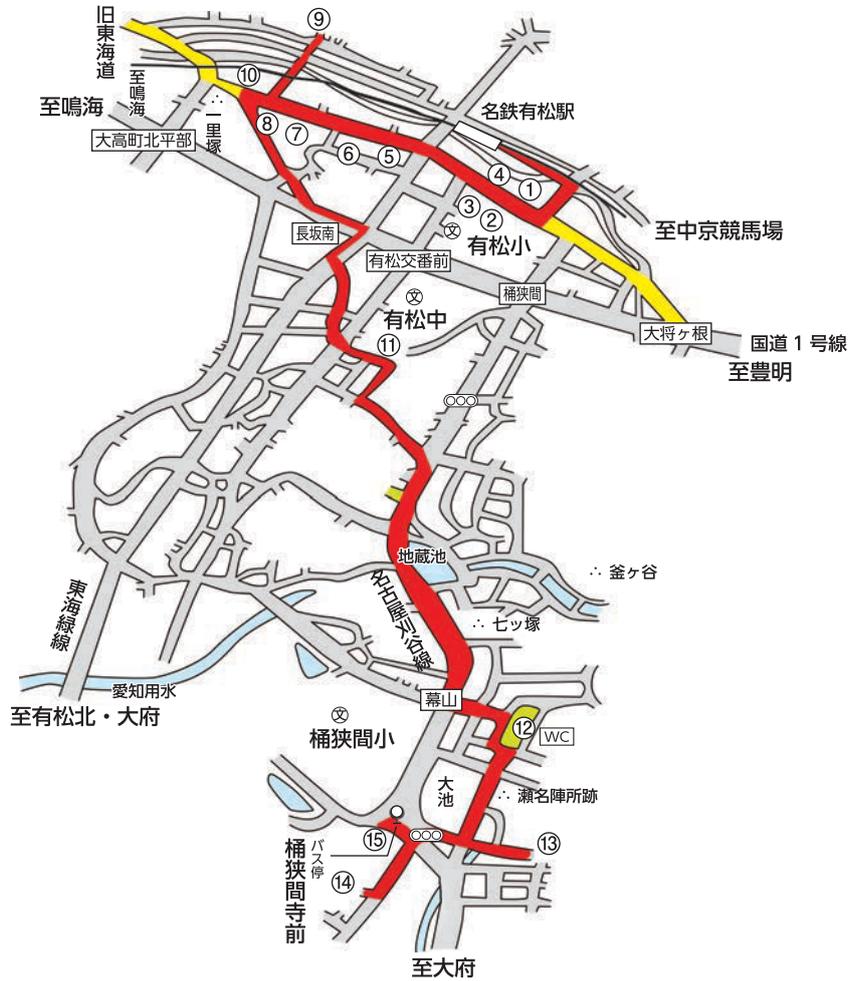
浄泉寺旧跡地

万福寺本堂欄間
昭和55年

史跡散策路・有松の町並みと桶狭間古戦場コース(約4.1キロ)

コース順路

- 名鉄有松駅
- ↓ 350円
- ① 有松山車会館
- ↓ 100円
- ② 竹田庄九郎碑
- ↓ 30円
- ③ 有松・鳴海絞会館
- ↓ 20円
- ④ 服部邸
- ↓ 200円
- ⑤ 常夜燈
- ↓ 60円
- ⑥ 竹田邸
- ↓ 60円
- ⑦ 岡邸
- ↓ 30円
- ⑧ 小塚邸
- ↓ 150円
- ⑨ 天満社
- ↓ 200円
- ⑩ 祇園寺
- ↓ 750円
- ⑪ 有松神社
- ↓ 1,100円
- ⑫ 桶狭間古戦場跡(公園)
- ↓ 250円
- ⑬ 長福寺
- ↓ 350円
- ⑭ 神明社
- ↓ 250円
- ⑮ 戦評の松
- ↓ 0円
- 市バス桶狭間寺前



有松山車会館展示からくり人形

仏足石(釈迦の足跡)と歌碑 祇園寺 昭和56年

コースガイド

①、③有松山車会館（ありまつだしかいかん）

有松には東町の「布袋車」中町の「唐子車」西町の「神功皇后車」3輛の山車(昭和41年市指定文化財)がある。いずれも精巧なカラクリ人形を乗せた豪華な山車で、10月の祭礼には町内を引き廻され、幻想的な姿を競い合う。館内では3輛のうち1輛を交互に展示している。

④服部邸（はっとりてい）

建造年代は不詳（江戸末期から明治初年）。主屋は木造2階建の塗籠造で、たちの低い2階は虫籠窓になっており卯建があがっている。倉庫群や荷造りのための作業場が設けられており絞問屋の面影を最もよくとどめている。（昭和39年県指定文化財）

⑥竹田邸（たけだてい）

江戸期と思われる塗籠造の主屋を中心に、西側には接客用の玄関、東側には土蔵群があり、書院・茶席ともに建築的に大変優れており、明治から大正期にかけて整備されていったとみられる。（平成7年市指定文化財）

⑧小塚邸（こづかてい）

主屋の一階は格子窓、二階は塗籠壁で切妻造棧瓦葺で正面に土庇がつき、隣家との境に卯建がある。塗籠造のうち最も古いものの一つである。明治期まで絞問屋を営んでいた。（平成4年市指定文化財）。

⑩祇園寺（ぎおんじ）

曹洞宗、文禄年間（1592～95）の創建。当初は円道寺といい、鳴海にあったが宝永3（1706）年に猿堂寺と改称、宝暦5（1755）年現在地へ移動し祇園寺と改めた。境内に33観音石仏や奈良薬師寺の仏足石を模したのがあり、その横には文政11（1828）年の豪潮の歌碑が建っている。

⑫桶狭間古戦場跡(公園)（おけはざまこせんじょうあと(こうえん)）

戦国時代に駿河、遠江、三河の三国に強大な勢力をもつ今川義元が天下統一をめざして永禄3（1560）年5月19日に京都に向けて進撃するところを、織田信長が桶狭間にいる今川の本陣を奇襲し義元を討死させた戦場跡である。この地は土地区画整理事業に伴い史跡を移設し、昭和63（1988）年桶狭間古戦場公園とし整備された。桶狭間古戦場の標石、今川義元公馬繫ぎの社松の塚、水汲みの泉などがある。

⑭神明社（しんめいしゃ）

祭神は天照大神。桶狭間合戦のとき、今川の家臣瀬名氏俊が戦勝祈願したという。宝物に義元が水を汲んだ桶がある。社前の杉の枯木は、徳川吉通（尾張藩4代目）が植えたもので、万延元（1860）年の台風により倒れ枯死してしまったものを神木として保存してきたものである。

②竹田庄九郎碑（たけだしょうくろうひ）

慶長13（1608）年尾張藩の奨励で、知多の英比庄から庄九郎始め8名がこの地に新しく村を開拓し、農家の副業として九州の豊後紋から、絞りの技法（九九利染）を考案した（有松絞の由来）。この功績をたたえ、昭和8（1933）年に有松絞商工同業組合が「有松絞開祖竹田庄九郎之碑」を建立。隣には、絞中興の祖鈴木金蔵翁の紀功之碑を移設した。

⑤常夜燈（じょうやとう）

常夜燈は区画整理の関係で一時的に有松天満社にあります。

⑦岡邸（おかてい）

江戸時代末期の建築で、主屋は木造2階建、切妻造棧瓦葺で正面に土庇がつき、2階は虫籠窓。特に台所の釜場の壁が柱を塗りこめて波型に仕立てているのは現存唯一の意匠である。絞商の町屋の典型の中でも古いものの一つで、今も幕末期当時の間取りをほぼそのまま残している。

⑨天満社（てんまんしゃ）

祭神は菅原道真。江戸時代の中期創建。神廟は当初祇園寺の境内にあったが、寛政10（1798）年に現在地に移り、文化7（1810）年に神殿を建立し、文章嶺と称するようになった。境内には筆塚などがある。

⑪有松神社（ありまつじんじや）

昭和30（1955）年に地元の人達が日清、日露、太平洋戦争で戦死した人を祀るため、新しく社殿を造った。

⑬長福寺（ちょうふくじ）

浄土宗、天文7（1538）年の創建。善空南立上人の開山。この上人は桶狭間合戦のときに今川勢の労をねぎらったという。本尊の阿弥陀如来像は、寺の境内で義元はじめ武将の首検証をして許された義元に使っていた茶坊主林阿弥が義元の供養のために後に納めたものと伝えられる。寺宝に義元公とその家臣松井宗信の木像、合戦記があり、境内には供養塔がある。

⑮戦評の松（せんびょうのみまつ）

永禄3（1560）年桶狭間合戦のとき、今川の家臣瀬名氏俊が大松の下に部将を集め、戦いの評議をしたところといわれている。昭和34（1959）年の伊勢湾台風で枯死してしまった。現在の松は、昭和37（1962）年に新しく植えたものであるが、平成19（2007）年に枯死してしまった。



桶狭間古戦場公園

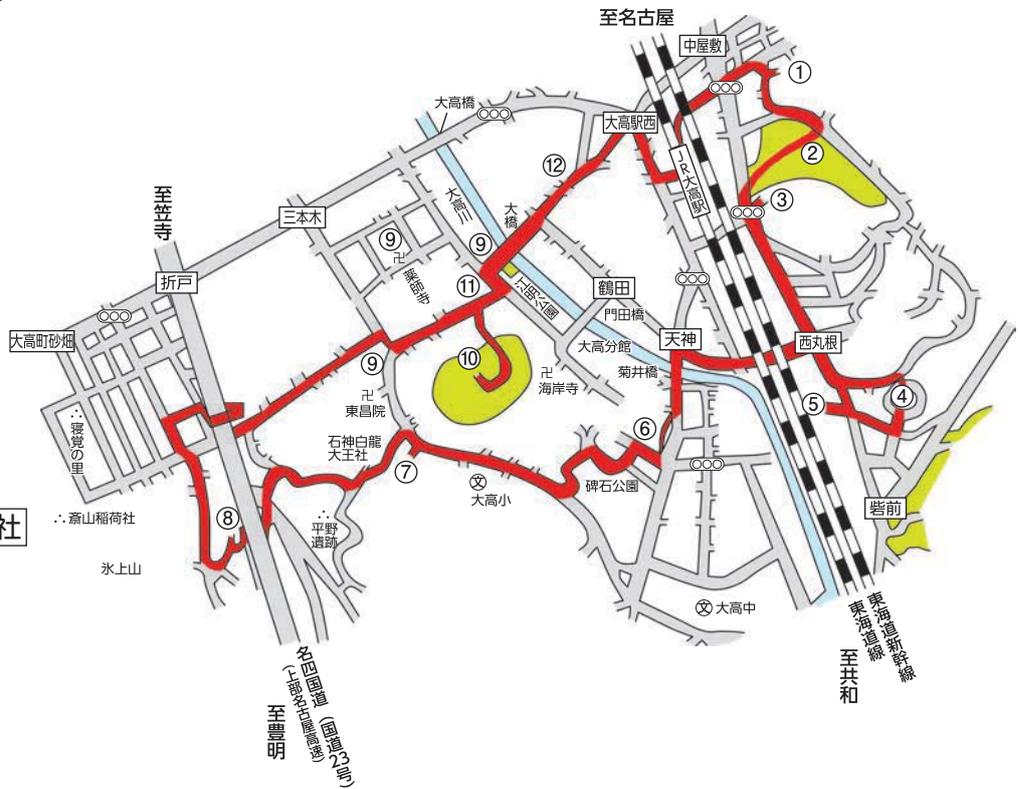


天満社祭りでのぎわう露天

史跡散策路・大高城下コース(約5.7キロ)

コース順路

- JR大高駅
- ↓ 250m
- ① 明忠院
- ↓ 250m
- ② 鷲津砦跡
- ↓ 300m
- ③ 長寿寺
- ↓ 600m
- ④ 丸根砦跡
- ↓ 250m
- ⑤ 山神社
- ↓ 600m
- ⑥ 津島社
- ↓ 550m
- ⑦ 春江院
- ↓ 750m
- ⑧ 氷上姉子神社
- ↓ 900m
- ⑨ 酒蔵
- ↓ 200m
- ⑩ 大高城跡
- ↓ 250m
- ⑪ 秋葉社
- ↓ 350m
- ⑫ 八幡社
- ↓ 250m
- JR大高駅



山神社



明忠院のイブキ (保存樹)



長寿寺 昭和54年

コースガイド

①明忠院 (みょうちゅういん)

曹洞宗、天正元(1573)年山口海老之丞が創建。本尊は釈迦如来金剛坐像。その他に、子守地藏像、毘沙門天立像がある。当初は真言宗であったが、元和5(1619)年春江院の末寺となり今の宗派とした。大正10(1921)年に県下で初めて保育施設を開設し、その記念碑がある。

③長寿寺 (ちょうじゅじ)

臨済宗、草創年月は不詳。本尊は阿弥陀如来座像。当初は真言宗長祐寺と称したが桶狭間合戦のとき、兵火によって焼失。大高領主志水忠継の子忠時は祖母長寿院の禅寺建立の遺命に従い、天和2(1682)年に伽藍竣工し、宗派を黄檗宗に寺号を長寿寺に改めた。その後元禄4(1691)年に臨済宗に改派した。

⑤山神社 (やまがみしゃ)

祭神は大山祇命、創建は不詳。当初は山仕事、狩猟の人達が安全を願って祀ったものであろう。以前は樹木繁茂し、屋でも暗い社叢をなしていたが、伊勢湾台風でその旧観がみられなくなった。

⑦春江院 (しゅんこういん)

曹洞宗、弘治2(1566)年水野大膳(大高城主)が創建。本尊は多宝如来。本堂は文政13(1830)年に、入母屋造りの鐘楼は慶応元(1865)年に再建された。書院は有松絞の開祖竹田庄九郎宅のものを移築。特に襖絵の「白さぎ」は狩野永秀の筆である。また、静けさと奥深さとの配合の美しさが見られる下村実栗作成の庭がある。

⑨酒蔵 (さかぐら)

大高川の左岸(南方向)に煙突や黒囲いの酒蔵の町並みがある。大高町の酒造の起源は不詳だが、かなり古くからあったらしく、酒株帳によると大高村200石という記録があり、樽舟によって遠くは江戸まで送られていたことからとても盛んであったといえる。現在は三軒で清酒醸造が行われている。

⑪秋葉社 (あきはしゃ)

祭神は迦具牟地神、創建は不詳。

②鷺津砦跡 (わしづとりであと)

永禄2(1559)年に信長が大高城の北東700[㍓]の丘陵上に、丸根砦とともに築城。永禄3(1560)年の桶狭間合戦のとき、今川勢に攻められ、砦を守っていた飯尾定宗ら大半の兵士が討死した。現在は公園にもなっており碑石が建っている。(昭和13年国指定文化財)

④丸根砦跡 (まるねとりであと)

鷺津砦の東南400[㍓]、大高城の東方800[㍓]の地点にあり、永禄2(1559)年信長が大高城を包囲するように築かれた砦の一つで、永禄3(1560)年の桶狭間合戦のとき佐久間盛重が守り、松平元康(徳川家康)ら今川勢の軍と激戦したところである。現在は碑石が建っている。(昭和13年国指定文化財)

⑥津島社 (つしましゃ)

祭神は素盞鳴尊、創建は不詳だが、寛文覚書には「天王」天和2(1682)年と記され、寺社方書付之書には「天王社内2反5畝、前々御除」と記されていることからそれ以前の古社であろう。江明地区の氏神で、俗に「お天王さま」ともいわれている。

⑧水上姉子神社 (ひかみあねごじんしゃ)

祭神は宮簀媛命。仲哀4(195)年の創建。熱田神宮の摂社で延喜式内社。宮簀媛命は日本武尊が東征の帰途この地に留められた際に結婚され、尊が亡くなった後草薙神剣を奉斎守護して、やがて熱田神宮におまつりした。これが熱田神宮の創祀である。その後持統4(690)年に現在地に移した。境内末社として、元宮、神明社、玉根社が現存している。北側の斉田では6月に御田植祭が行われる。

⑩大高城跡 (おおだかじょうあと)

築城年代は不詳。永正年間(1504~20)の頃は花井備中守が、天文・弘治の頃には水野忠氏父子居城した。桶狭間合戦のときには、今川の支配下であり、松平元康(徳川家康)の兵糧入れは有名である。合戦後元康は三河に帰り、廃城となった。その後、元和2(1616)年志水忠宗が三の丸に宅を設けたが明治3(1870)年に廃した。(昭和13年国指定文化財)

⑫八幡社 (はちまんしゃ)

祭神は応神天皇、神功皇后、玉依姫命。神木はクロガネモチ。室町時代に花井備中守(大高城主)が鶴岡八幡宮の分身を迎え祀ったと伝えられている。



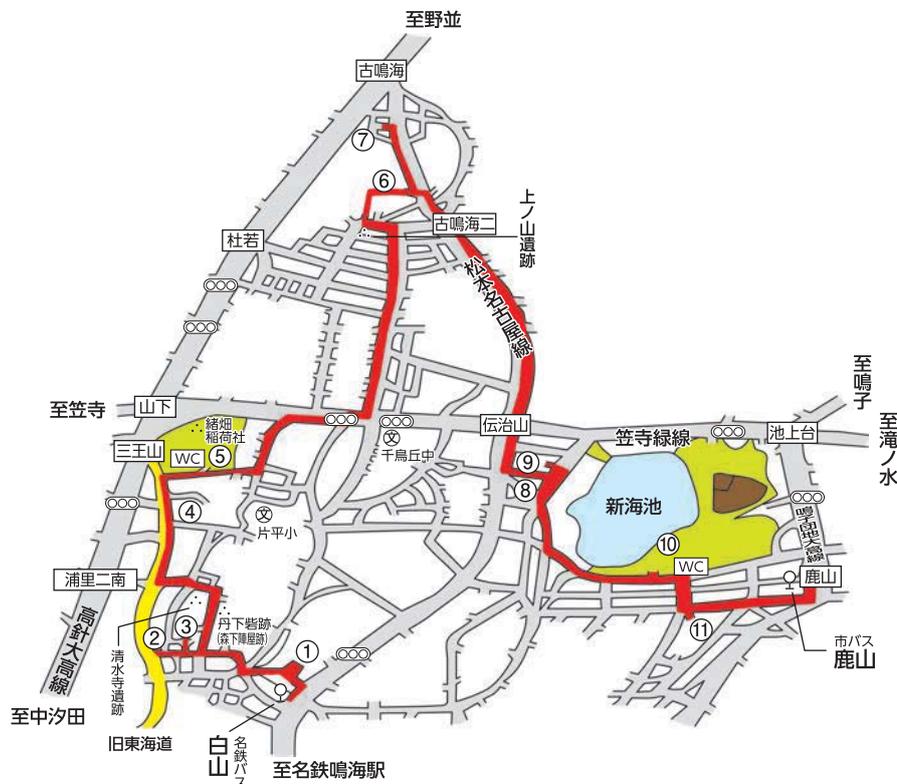
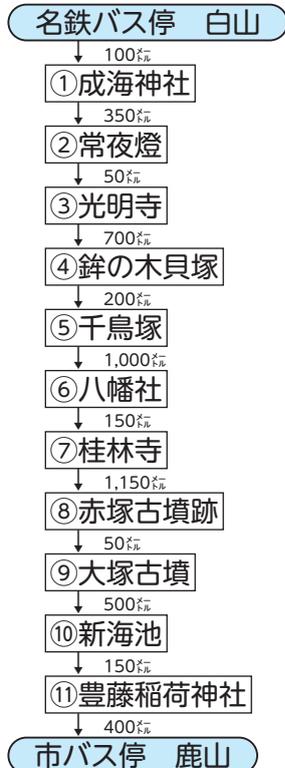
秋葉社



竹田庄九郎邸移築狩野永秀襖絵 春江院 昭和54年

史跡散策路・千鳥塚コース(約5キロ)

コース順路



コースガイド

①成海神社 (なるみじんじや)

祭神は日本武尊、宮實媛命、建稲種命を合祀する延喜式内社である。天武朱鳥元(686)年の鎮座で鳴海の氏神として古くから尊崇されている。応永年間(1394~1427)に根古屋(鳴海)城築城のため現在地へ移転。境内には東宮稻荷やだるま塚があり、茶室の庭には「初秋や海も青田の一みどり」の芭蕉の句碑がある。

③光明寺 (こうみょうじ)

曹洞宗、弘治2(1556)年剛庵和尚の開山。本尊は子安地蔵菩薩。

⑤千鳥塚 (ちどりづか)

貞享4(1687)年冬、寺島安信宅で「星崎の闇を見よとや啼く千鳥」を立句とした俳諧の一巻ができたことを記念して建てたものである。碑文は芭蕉の自筆で芭蕉存命中唯一の碑である。昭和52(1977)年、市指定文化財となった。現在、遊具広場・芝生広場・休憩施設を備えた千鳥塚公園となっており、公園の奥には緒畑稻荷が祀られている。

⑦桂林寺 (けいりんじ)

曹洞宗、創建は不祥。本尊は薬師如来像。昔は薬師堂といった。昭和20(1945)年の空襲で全焼し、現在の本堂は昭和42(1967)年に再建した。

⑨大塚古墳 (おおつかこふん)

古墳時代後期(7世紀)に属すると考えられ、円墳で横穴式石室である。天井石は失われているが石組はほとんど残っている。

⑪豊藤稻荷神社 (とよふじいなりじんじや)

祭神は倉稻魂命、猿田彦命、大国主命、事代主命の四柱。嘉永4(1851)年に京都の伏見稻荷の分身を迎えて、社殿を建てて祀ったのが始まりといわれ、社殿は戦後近代建築に改築された。

②常夜燈 (じょうやとう)

寛政4(1792)年篤志家の寄進により宿場町の西入口に設置され、旅人の目印や火事の難を逃れるための秋葉社を祈願したもの。

④銚の木貝塚 (ほこのきかいづか)

東海地方前期縄文文化遺跡の代表的なもの。灰貝を主とするが、貝層薄く、薄手の羽状縄文、爪形文、細い凸帯文などを飾る土器を主体とし、石器はほとんどない。この付近一帯の丘陵地には上ノ山、大根、清水寺、光正寺、雷、伝治山、森下、城などの貝塚・遺跡があった。

⑥八幡社 (はちまんしゃ)

祭神は天照大神と応神天皇。明治時代に場所は神明社、名は八幡社にして合祀した。創建は不祥。現在の社殿は昭和42(1967)年に改修されたものである。東側の鳥居そばには記念樹にも指定されている神木のくすのぎがある。

⑧赤塚古墳跡 (あかつかこふんあと)

古墳時代後期(7世紀代)に属するもので円墳(玄室は約3m×2m、羨道は約3m×1.7m)。文化年間(1804~)に発掘され、昭和5(1930)年に再調査された。

⑩新海池 (にいのみいけ)

区内で最も大きい池である。江戸時代(前期頃)に新海五平治が藩の許可をとって造った池で、かつては農業用水のため池として重要な役割を果たしていたが、最近では雨水の調整池となっている。近年、池の一部を埋め立て、野球場や公園として整備され、区民の憩いの場となっている。



成海神社を出発する神輿 昭和56年



桂林寺の阿弥陀如来軸 昭和54年



古鳴海八幡社 昭和56年



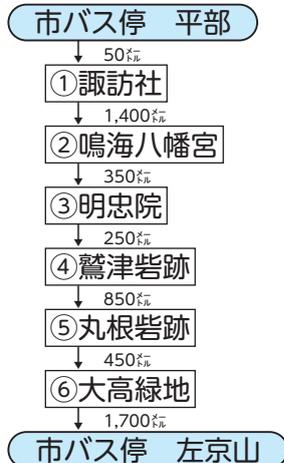
丹下常夜燈



新海池

史跡散策路・緑地・砦コース(約5キロ)

コース順路



コースガイド

① 諏訪社 (すわしゃ)

祭神は建御名方神、創建は不祥だが、ここは14世紀頃に瑞泉寺があったところといわれ、当時すでに諏訪社も祀っていたことから鎌倉時代と推定される。現在の本殿は昭和11(1936)年に造営されたもので、現在の社務所が旧本殿であった。境内には、神社と建御名方神のお妃である八坂刀賣命を祭神とする下諏訪社も祀られている。

③ 明忠院 (みょうちゅういん)

曹洞宗、天正元(1573)年山口海老乃丞が創建。本尊は釈迦如来金銅坐像。その他に、子守地蔵像、毘沙門天立像がある。当初は真言宗であったが、元和5(1619)年春江院の末寺となり今の宗派とした。大正10(1921)年に県下で初めて保育施設を開設し、その記念碑がある。

⑤ 丸根砦跡 (まるねとりであと)

鷺津砦の東南400^m、大高城の東方800^mの地点にあり、永禄2(1559)年信長が大高城を包囲するように築かれた砦の一つで、永禄3(1560)年の桶狭間合戦のとき、佐久間盛重が守り、松平元康(徳川家康)ら今川勢の軍と激戦したところである。現在は石碑が建っている。(昭和13年国指定文化財)

② 鳴海八幡宮 (なるみはちまんぐう)

祭神は応神天皇、瓊々杵尊、玉依姫命、神功皇后、月読命の五柱。創建は不祥。成海神社の別宮と伝えられている。裏方の成海神社に対し、表方と呼ばれる。神木は樹齢1100から1200年のクスノキの大木である。

④ 鷺津砦跡 (わしづとりであと)

永禄2(1559)年信長が大高城に備えて、大高城の北東700^mの丘陵上に、丸根砦とともに築城。永禄3(1560)年の桶狭間合戦のとき今川勢に攻められ、砦を守っていた飯尾定宗ら大半の兵士が討死した。現在は、公園にもなっており石碑が立っている。(昭和13年国指定文化財)

⑥ 大高緑地 (おおだかりよくち)

自然の樹林、草地、池などがあり、四季を通じて自然とふれあい、休憩、散歩、遊戯、スポーツ、レクリエーションができる公園である。施設はゴーカートに乗れる交通公園、プール、野球場、テニスコート、児童園、和風庭園、デイキャンプ場、花木園、桜の園などがある。

2 緑区の木と花

緑区の木と花

市制100周年を機会に「区の木・区の花」が区民の投票により、平成元（1989）年12月に選定されました。

区の木 カエデ

カエデ科カエデ属の総称で、モミジもこれに含まれます。カエデの仲間は、秋の紅葉の美しさでよく知られていますが、春の新芽、夏の若葉、冬の落葉後の枝ぶりなどもまた素晴らしいものです。国内には20種類以上あるといわれています。古くから風致樹として親しまれ植栽されており、街路樹や庭木としてよく使われています。

現在、区内の街路樹にはトウカエデが一番多く植えられており、美しい並木となっているところが多く見かけられます。日当たりの地を好む木ですが、過度の乾燥をきらうので適度な湿度を保てるところが好適です。



区の花 ミヤコワスレ



キク科の宿根草で5～6月に開花します。花の色は濃い紫、淡い紫、桃、白などがあります。花は清楚で可愛らしく、茶花や生花としてもよく利用されています。

ミヤコワスレの名は、その昔、順徳天皇が承久の乱で佐渡に流された折り、「この花を見ると都のことも忘れられる」と言われたことから、この名がつけられたとされています。丈夫で育てやすい花で、初心者にも容易い栽培ができます。暑さと湿地は好まず、排水のよい木陰となるようなところでよく育ちます。夏は乾燥させないようにたっぷりと水を与えるようにします。プランターや鉢植えでも育てやすく、庭先や窓辺でも美しい花を楽しむことができます。ふやし方は、花後または秋に3～4芽ずつ株分けします。また、さし木でもふやすことができます。

3 木と花

緑区の自然

緑区には多く雑木林、池、川、公園に自然が残るほか、神社、寺にも木々が茂っています。こうした自然のなかには多くの動植物が育っており、身近な自然に触れ、楽しむことができます。明治32（1899）年に絶滅したとされるニホンオオカミの話が鳴海には残っていますが、自然を散策すると季節の花々はもちろんですが、タヌキはたまに見かけることがあります。カワセミやオシドリなど野鳥、ギンヤンマなどトンボやチョウ、絶滅危惧種のメダカなどにもふれあうことができます。

幻となった名木

- 1 日本武尊鉾掛の松 日本武尊鉾掛の松とされる松は枯れ、鉾の木に碑だけが残っています。



昭和54年

- 2 源義経兜懸の松 鳴海砂田 宝永元（1704）年大風で倒れたとされます。
- 3 今川義元鎧掛の松 鳴海大将ケ根 幹回り約4㍍ 昭和初期枯死しました。
- 4 戦評の松 桶狭間 幹回り約4㍍ 昭和34（1959）年台風で倒壊 昭和37（1962）年2代目植樹、平成21（2009）年3代目松が植樹されました。
- 5 善照寺砦の松 鳴海砦 幹回り約4㍍ 昭和37（1962）年に伐採され記念に棗制作されました。
- 6 齊山稲荷のクロガネモチ 昭和29（1954）年に愛知県天然記念物に指定 昭和47（1972）年の調査で枯死確認 昭和50（1975）年天然記念物指定解除されました。



昭和47年

緑区の名木

緑区は名古屋市の南東部にあり、東西約10.7^{キロ}、南北約7.8^{キロ}で、面積約37.9平方^{キロ}と市域の約12%を占めて、丘陵地が大きく広がっています。区内の東海道と知多街道に沿って古くからの神社と寺があり、境内には保存樹に指定された古木が茂っています。

保存樹（緑1）は昭和49（1974）年に指定された瑞泉寺のクスノキです。誓願寺には同年に指定（緑5）されたソテツの大株があります。また、区内には自然の姿を残す森も多くあり、米塚、鷺津、火上山、桶狭間、熊野、成海神社、諏訪社、丸根砦、諏訪山諏訪社が緑地保全地区として指定され、貴重な樹林地や湿原などが守られています。緑地保全地区の鷺津は長寿寺と明忠院の境内に鷺津砦公園を含む一帯はシイノキ（スタジイ、ツブラジイ）を主にした常緑広葉樹で覆われるほか、アベマキ、コナラなど落葉樹が混在する自然の森となっています。

保存樹に指定されいな樹木にも素晴らしい木が多くあります。鳴海東部小学校の校庭で育つセンダンもその一つです。



保存樹（緑1）瑞泉寺のクスノキ

花の咲く公園など

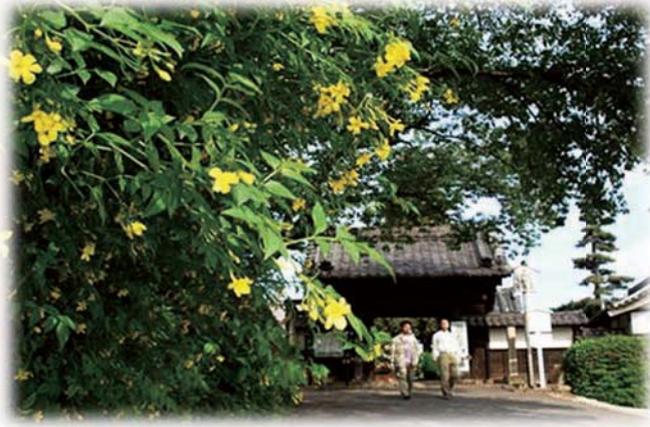
春の訪れとともに、花のたよりが・・・桜の季節になるとこんな言葉が聞かれますが、桜はもちろんです、季節ごとに花を楽しませてくれる公園などが数多く点在しています。

滝の水公園にはハナモモ12種類830本、潮見が丘公園あけぼの広場には芳香植物22種類392本、大高緑地梅林には350本のウメが季節には花をさかせます。また、絶滅危惧種に指定されるシラタマホシクサは滝ノ水緑地と大高緑地で見ることができます。

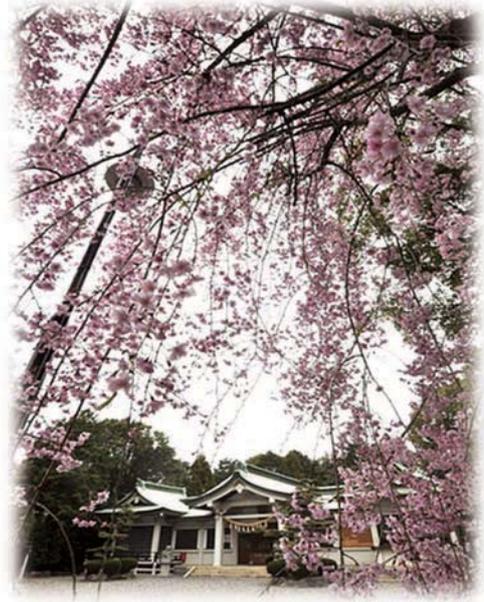
桜は（桶狭間大池・扇川緑道・熊野社、戸笠池、四郎曾池、新海池、白龍社）など、ツバキはどこでも見かけられますが、深い森の中の朝苧社などでは素晴らしい景観を見せてくれます。



シラタマホシクサ 滝ノ水緑地



長福寺



古鳴海八幡社



豊饒の里



四郎曾池



滝の水公園



諸の木



笹塚



神沢川



扇川公園



愛知用水



亀が洞



徳重